

## ◆経緯

平成30年の台風第21号の被害の教訓と課題から、今後発生が予測される巨大地震やその他あらゆる災害にも対応できる強靱な体制づくりが必要。「令和元年」を「防災元年」と位置づけ、防災、減災の取り組みにより、まち全体の防災力強化を目指す

## ◆とりくみ内容

- 1 熊取町地域防災計画の改定と各区・自治会の地域性に応じた自主防災マニュアルの作成
- 2 避難所生活を考慮し、小中学校に防災倉庫を追加設置。衛生的なトイレや毛布、マット等の避難所の防災用備品の整備を行う。
- 3 地域交流や介護予防の拠点である「老人憩の家」の耐震化の推進
- 4 地域の防災力向上のため、「防災士100人育成」として自治会等から人員を選出、町内で「100人」の防災士の資格の取得を目指し、地域の防災力を向上させる。
- 5 専門講師による防災講演会の実施
- 6 役場庁内の体制の強化と職員の危機管理意識向上のため、災害応急対策班ごとによるワークショップを実施
- 7 住民の安全・安心のための備えとして、応急対策及び復旧に要する経費の財源として10億円の防災基金の創設。避難所運営・必要物資費用・道路の通行解放にかかる費用・災害ごみの撤去処理費用・公共施設の復旧費用等に利用（ふるさと応援寄付金の活用）

## ◆効果

自治体・地域の防災力を向上させることにより、異常気象時の、被害を低くできること。また、熊取町役場としての対応範囲が広がること及び役場が対応できない事態となった場合でも、地域で減災に向けた行動や避難等が地元独自でとれるようになり、全体的な被害の軽減が図れる。

防災資機材倉庫(小中学校に設置)



老人憩の家の耐震化

